

令和4年度 徳島県立鴨島支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立鴨島支援学校長 森本 真由美

1 学力向上検討委員会構成

| 学 力 向 上 検 討 委 員 | | |
|-----------------|--|-----------------------------------|
| | 職名・校務等担当名 | 氏名 |
| 管理職 | 校長 教頭 | 森本 真由美 掛田 千津子 |
| 学力向上推進員 | 教務課長 | 中 史治 |
| 委員 | 小学部長 中・高等部長 小学部教務主任 中・高等部教務主任 | 藤原 美咲 近藤 美和子 北條 佳子 上田 利沙 |

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

| (小 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況 | | | |
|----------------------------|---|---|---|
| よ さ | <p>在籍児童数は少なく、体調や家事都合等で登校が不安定な児童もいるが、リモート等それぞれに応じた方法で学習を継続することができている。また、病棟訪問学級では、学校と病棟間でリモート学習が始まり、長期間病棟閉鎖中の児童も短時間の学習ができている。ICT機器の活用により、場所を選ばず、リモートで学部の児童同士が時間を共有し活動することができた。また、コロナ禍で直接的な体験は難しかったが、工場見学やものづくりなどの体験をしたり、飯尾敷地小学校との交流もリモートで実施できている。</p> | 課 題 | |
| | 児童数の減少と個々の実態の違いや児童の特性により、集団での学習が難しくなっている。教員と対面で活動することが多くなり、児童同士の関わりは年々減少傾向にある。同年代の友だちとの関わりや、遊びの形成が難しく、コミュニケーション能力や社会性を伸ばすことが難しくなっている。また、児童によっては同年代の模範になる児童がないことで、集団の規律やルールなど友だちを見て育っていく面や遊びなど関わりながら学んでいく面は、教員だけではうまく育っていかない。社会性を学ぶ集団との保障が課題となっている。 | | |
| | 具 体 的 目 標 (目 指 す 子 ど も の 姿) | 成 果 指 標 | 達 成 状 況 |
| | 個々に応じた基礎的な学力を高め、自己の生活につなげる力をつけることができる。 | 目標に対する達成状況について、教員にアンケートをとり、「達成できた」、「どちらかというとな達成できた」の評価を合わせて70%以上で達成とする。 | アンケートの結果、「達成できた71%」、「どちらかというとな達成できた。29%」であったので、目標は達成できた。 ----- 評価 A |

| 具体的方策(教員の取組) | 取組指標 | 取組状況 |
|---|--|---|
| <p>ケース会等を通して児童の特性や配慮事項等を周知することで共通理解を図り、児童の実態について教員の理解を深める。</p> <p>児童の中心的課題の検討会を企画し、より深い実態把握を元に、各教員がそれぞれ課題を出し合い、児童の中心的課題を導き出す。</p> <p>-----</p> <p>* 中間期の見直し</p> | <p>現在授業を実施できている児童4名について、中心的課題を導き出す検討会を児童一人につき1回以上実施することができる。</p> | <p>・ケース会や朝礼、学部会などで児童の特性や配慮事項等をこまめに周知することで児童の実態についての理解を深めた。</p> <p>・自立活動の指導立案シートをもとに児童の中心的課題の検討会を実施し、各教員の捉えた実態や課題を付箋に書いて出し合うことで、出てきた意見の可視化を図り、課題を見いだしやすくした。出てきた課題を関連図として関係付け基盤となる中心的課題を導き出すことができた。</p> |
| 達成状況を踏まえた改善事項 | | |
| | | |

| (中・高等部) 幼児児童生徒の状況 | | | |
|---|--|--|---|
| よさ | <p>学校生活全般において、挨拶や返事といった基本的な態度は、少しずつではあるが身につけることができている。また、高等部の生徒は就業体験を通して、中学部の生徒はその発表を聞くことで、自分の進路や将来のことを考え自らの課題に向き合い、今後に向けて取り組む姿勢が見られる。</p> | 課題 | <p>卒業後に向けて、生徒が集団において自ら発信し、他者と関わる力をつけていくことが必要である。しかし、少人数、障がいの多様化で集団での活動が難しい。生徒同士の関わりを増やしていく、社会生活に必要な力をつけていくことが課題である。</p> |
| 具体的目標(目指す子どもの姿) | 成果指標 | 達成状況 | |
| <p>主体的に進路選択をするとともに、社会参加に必要な意欲や態度を身につけることができる。</p> | <p>目標に対する達成状況について、教員にアンケートをとり、「達成できた」、「どちらかというとなら」と達成できた」の評価を合わせて70%以上で達成とする。</p> | <p>アンケートの結果、「達成できた55%」、「どちらかというとなら」と達成できた。33%であったので、目標は達成できた。</p> <p>-----</p> <p>評価 A</p> | |
| 具体的方策(教員の取組) | 取組指標 | 取組状況 | |
| <p>学部ケース会を個別の指導計画様式5及び6をもとに、前期・後期各2回ずつ実施し、担任や教科担任からの情報を学部全員で共有する。</p> <p>-----</p> <p>* 中間期の見直し</p> | <p>個別の指導計画様式5及び6をもとに、前期・後期各2回ずつ実施し、担任や教科担任からの情報を学部全員で共有する。</p> | <p>前期・後期各2回ずつケース会を実施し、生徒一人一人について、担任や教科担任から情報を得ることができ、学部全体での共有ができた。</p> <p>在宅訪問生や病棟訪問生についても、個別の教育支援計画や指導計画をもとに、現状を報告し、共通理解が図れた。</p> | |
| 達成状況を踏まえた改善事項 | | | |
| | | | |